

《カトリック大和高田教会 お知らせ》

2025年6月1日

典 礼 暦	日 時 など
主の昇天(祭)主日	6月 1日 (日) ミサ 8:30
	6月 5日 (木) ミサ 10:30
	6月 7日 (土) ミサ お休み
聖霊降臨の主日(祭)	6月 8日 (日) ベトナム語ミサ 14:00
	6月12日 (木) ミサ 10:30
	6月14日 (土) ミサ 8:00

【京都司教区】

●京都チェジュ姉妹教区交流月間(毎年6月)【掲示板 参照】

京都教区とチェジュ教区は、2005年6月7日に姉妹教区の縁組をし、司祭・神学生・信徒間の交流が行われています。これを記念して、京都教区は毎年6月を姉妹教区交流月間としています。

●京都チェジュ姉妹教区交流20周年感謝ミサ

日時：6月8日(日) 10時30分～

場所：カトリック河原町教会

【奈良ブロック】

●2025年度「聖書を学ぶ会」ーテーマ「希望の巡礼者の聖年」ー

回	日 時	会 場	講師／「サブテーマ」
3	6月21日(土) 10:30～12:00	大和八木 教会	奥村豊神父(京都司教区)／ 「希望に錨を下ろして」
4	7月12日(土) 10:30～12:00	奈良教会	英隆一朗神父(イエズス会)／ 「希望をあかして生きる」

●奈良県青少年の集い (詳細は、掲示板をご覧ください)

日時：2025年6月14日(土)18:00～15日(日)12:00、昼食後解散

会場：西大和カトリックセンター

指導：サレジオ会・四日市志願院(神父、修道士、高校生志願生)

サレジアン・シスターズ

●奈良ブロック・合同堅信式のお知らせ

9月28日(日)、大和八木教会の予定です。

受堅をお望みの方は、役員へお申し出下さい。

【大和高田教会】

◎京都チェジュ姉妹教区交流の祈り(共同祈願)

「主よ、私たち京都教区とチェジュ教区が、
姉妹教区縁組を通して韓国と日本の歴史と文化の相互理解を
深め、両国を始め、アジアと世界の平和のために奉仕すること
ができますように。」

チェジュ教区との交わりを深め、交流を推進していくことが
出来るようお祈り下さい。

◎ベトナムコミュニティの結婚式について

6月8日(日)、ベトナム語ミサ中に結婚式があります。

新郎 フランシスコ(洗礼名)さんと

新婦 テレサス(洗礼名)さんです。

おめでとうございます。お二人のためにお祈り下さい。

◎「教区時報/心のともしび」6月号が届いています。

◎「聖書の分かち合い」(Sr.ローマ)：6月5日(木)ミサ後

◆ 教会掃除当番

6月1日(日)ミサ後：奉仕日(全員)担当箇所は下記を参照

{A地区}司祭館(共有全体)・前庭・通路・中庭の草取りと掃き掃除

{C地区}聖堂・ホール・小聖堂・香部屋・トイレ清掃

{D地区}旅路の家・教会ホールガラス拭き

6月8日(日) 結婚披露宴終了後：D地区

本日の聖歌

入祭	典	147	天は神の 栄光を語り	奉納	典	95	心を尽くして
答唱	プ		聖書と典礼	拝領	典	46	神の注がれる目は
アレルヤ	プ		聖書と典礼	閉祭	典	400	ちいさな ひとびとの

6月1日 主の昇天 ルカ24章46～53節 イエスはどこへ行った？

復活されたイエスは女性たちや弟子たちに姿を表し、しばらく地上で生活された後、五十日目に昇天されました。今日はその記念ですが、五十日目というと前の木曜日、つまり復活節第6木曜日にあたります。しかし、キリスト教国ではない日本などでは平日なので五十日目の次の日曜日、復活節第7日曜日に祝うことになっています。それで本来あるはずの復活節第7主日は消えてしまっているわけですね。その日の聖書朗読箇所もあるのですが今日は読まれません。その代わりに復活節第6主日に読んでもいいことになっています。そして今日は第一朗読と福音で主の昇天の出来事が朗読されます。

さて、イエスは昇天してどこへ行かれたのでしょうか。「どこって、天に決まってるやんか」。たしかにそうですね。聖書にもそう書いてありますし、第一朗読では弟子たちが空を見上げていたことから、空に向かって上がっていかれたことは確かでしょう。しかし、雲の上を探しても天国はありませんし、イエスはおられません。大切なポイントは、空に上がったことよりも「見えなくなった」ことです。ここでルカ24章のエマオでの出来事を思い出してみましょう。途上で旅人と出会った二人の弟子は、食事の際にその旅人がパンを裂いたときにイエスだと気づいたのですが、姿が見えなくなりました。そのときに「二人の目が開け」と記されています。目が開いたならイエスがそこにいるはずですが、逆に見えなくなります。しかし彼らは、見失ったことを悲しむことなく急いでエルサレムに戻ります。イエスが復活したことを仲間に伝えるためです。

今日の福音でも弟子たちは大喜びでエルサレムに帰ります。イエスが天に上げられたのはめでたいことではありますが、彼らにとっては別れです。せっかく五十日も一緒にいたのにもっといてほしいと思ったことでしょう。けれども、生身のイエスが弟子たちと一緒にいたらほかの人たちと会うことができません。ということは、イエスの姿が見えなくなったということは、霊的な存在として、弟子たちは心の中でいつでも会えるようになられたのだということです。そしてそのことは、聖霊降臨を通してはっきりと表されることになります。そのように考えると、復活・昇天・聖霊降臨は別々の出来事ではなく、イエスがともにいてくださるためのプロセスであったということもできますね。

以前、ミサの説教で一人の子どもに来てもらい、イエスの絵をそっと背中に張り付けるといっていただけました。「イエスさまはどこにいったのかな？」とさがしてもらいましたがもちろん見つかるはずはありません。それはイエスを背負っているからです。外にあるものは見えますが、自分のうちにあるものは見ることはできません。エマオでの弟子たちがイエスの姿が見えなくなったのは、心の中に来られたからだと考えられます。わたしたちがイエスを心の中に迎えるとき、そこは「天」となります。「天」は神さまがいらっしゃる場所なのですから。

(柳本神父)